

# 栗原市



# 中野神楽

栗原市栗駒中野地区に伝わる中野神楽<sup>なかのかぐら</sup>は、約150年の歴史がある山谷系南部<sup>やまや</sup>神楽で、市の無形民俗文化財に指定されています。その由来は、明治初年、山谷神楽（岩手県一関市巖美町<sup>げんび</sup>）を習得した者が農業の手伝いで中野地区に来ていた際に伝授されたと言われてしています。明治5年（1872）に佐竹幸吉<sup>さたけこうきち</sup>を初代として始まり、二代目はその長男清次<sup>せいじ</sup>、三代目は孫の精一郎<sup>せいいちろう</sup>と受け継がれ、現在は6代目となっています。



(中野神楽提供)

演目は、鳥舞<sup>とりまい</sup>、三番叟<sup>さんばそう</sup>、岩戸入<sup>いわといり</sup>、宝剣治め<sup>ほうけんおさ</sup>、大蛇退治<sup>おろちたいじ</sup>、小袖曾我<sup>こそでそが</sup>、田村二代<sup>たむらにだい</sup>、義経中尊寺月<sup>よしつねちゅうそんじつき</sup>見坂<sup>みざか</sup>の受難<sup>じゆなん</sup>など、多数あります。現在、地元のみならず他の地域の神社の祭典をはじめ、一迫あやめまつりや栗駒ふるさとまつりなどに出演しています。また、栗駒地区で行われている神楽教室の指導にも携わっており、神楽の伝承に力を入れています。



(中野神楽提供)